

パブリックコメント意見募集の結果公表

帯広市都市計画道路見直しの基本的な考え方（案）に対して、市民の皆様からご意見を募集しました結果について、ご意見の概要と市の考え方は下記のとおりです。ご意見をお寄せいただきありがとうございました。

寄せられたご意見等について検討した結果、帯広市都市計画道路見直しの基本的な考え方（案）の修正は行わず原案どおりとして策定することとしました。

【意見募集結果】

案 件 名	帯広市都市計画道路見直しの基本的な考え方（案）		
募 集 期 間	平成21年 3月30日（月）～ 平成21年 4月30日（木）		
意見の件数 （意見提出者数）	11件（ 6人）		
意見の取り扱い	修正	案を修正するもの	件
	既記載	既に案に盛り込んでいるもの	3件
	参考	今後の参考とするもの	7件
	その他	意見として伺ったもの	1件
意見の受け取り	電子メール		2人
	郵送		人
	ファクシミリ		1人
	直接持参		3人

【意見等の内容】

市民等の意見の概要	件数	意見に対する帯広市の考え方
弥生新道について、予定されている4車線を緑の破壊を最小限とするため2車線化に変更することを提案する。	1	【既記載】 「基本的な考え方（案）」において、弥生新道の課題として、交通量減少による4車線の必要性低下と記載しており、今後の個別路線の具体的な検討段階において、将来交通量による必要な車線数と現計画による車線数とを比較し、不整合がある場合に、必要な車線数に変更することとしております。
弥生新道について、帯広市の最も高度な教育と研究の機能が集中している文教地区である畜大・農業高校の間の敷地は農地を除いて、トンネル化して通過することを提案する。	1	【その他】 畜大・農高間のトンネル化につきましては、畜大へのアクセスや事業費を考慮し、総合的に検討すべき課題と考えております。

市民等の意見の概要	件数	意見に対する帯広市の考え方
<p>弥生新道について、帯広農業高校前及び帯広畜産大学前の道路工事は、帯広農業高校の林、機関庫の川周辺の緑地に影響を及ぼす恐れがある。緑地の保全のためには、コア部分だけではなく、緑地そのものに人為的インパクトが少ない緩衝地帯がある程度必要で、道路工事は周辺の市街化を誘引し、人為的インパクトを増大させる。さらに帯広市は環境モデル都市に指定されていることから、この地区の保全を再検討してほしい。</p>	1	<p>【参考】 ご指摘のとおり、現計画のままでは機関庫の川河畔林を縦断的に進むことから、自然環境への影響が大きいと考えられます。 このことは、「基本的な考え方(案)」において、弥生新道の課題として記載しており、今後の個別路線の検討段階において、車線数の変更や現道を活用した線形の変更を検討し、自然環境への影響を最小限に抑えるよう配慮していきたいと考えております。</p>
<p>弥生新道について、自然環境保全の視点から、現況のまま拡幅及び線形の変更をせずに現状維持とし、自然林や防風林が伐採されることがないようにしていただきたい。</p>	1	<p>【参考】 弥生新道は、帯広圏(1市3町)の主要幹線道路として位置付けられ、国道241号帯広北バイパス(帯広北新道)、国道236号(大通)とともに南北交通の軸を形成することから、広域交通の円滑化を図る重要な道路であるため、整備が必要であると考えております。 現計画では機関庫の川河畔林を縦断的に進むことから、自然環境への影響が大きいと考えられます。今後の個別路線の具体的な検討段階において、自然環境への配慮をし、車線数の変更や現道を活用した線形の変更を検討していきたいと考えております。</p>
<p>弥生新道について、線形を見直し、既存道路の西2線の再整備にとどめて、加えて車線は2車線のままにとどめてください。</p>	1	<p>【参考】 現計画では機関庫の川河畔林を縦断的に進むため、自然環境への影響が大きいと考えられることから、「基本的な考え方(案)」において、弥生新道の課題として記載しております。そのほか、4車線の必要性低下や高速道路の有効活用などの課題に対応するため、今後の個別路線の具体的な検討段階において、車線数の変更や現道を活用した線形の変更を検討していきたいと考えております。</p>
<p>学園通について、農業高校のカシワ林のカシワのみならず林縁のカラマツやヤナギ、湿性林などにも一切手を付けず、迂回等の手段で計画を変更してください。 この農高のカシワ林は多様な動植物の生息環境を保全するために指定された北海道環境緑地保護地区であり、その自然の多様な貴重さは研究者の各種調査によって報告済みであり、その保全をいささかも軽視してはならない。</p>	2	<p>【参考】 現計画では北海道自然環境等保全条例の環境緑地保護地区に指定されている帯広農業高校のカシワ林の林縁を縦断的に進むため、自然環境への影響が大きいと考えられます。 このことは、「基本的な考え方(案)」において、学園通の課題として記載しており、今後の個別路線の具体的な検討段階において、このカシワ林への影響を最小限に抑えるため、幅員の縮小や迂回等の方向で検討することとしています。</p>

市民等の意見の概要	件数	意見に対する帯広市の考え方
<p>学園通について、拡幅によって帯広農業高校のカシワ林の一部が伐採されることになるため、このカシワ林の保全のため、拡幅を行わずに現況のまま整備を行わないでいただきたい。</p>	1	<p>【参考】 学園通は中島通や栄通などとともに帯広市の外郭を形成する幹線道路です。また、将来交通量から4車線が必要であり、拡幅整備が必要であると考えております。 しかし、現計画では北海道自然環境等保全条例の環境緑地保護地区に指定されている帯広農業高校のカシワ林の林縁を縦断的に進むため、自然環境への影響が大きいと考えられます。 今後の個別路線の具体的な検討段階において、このカシワ林への影響を最小限に抑えるため、幅員の縮小や迂回等の方向で検討していきたいと考えております。</p>
<p>光南通について、弥生通の整備により交通体系が明らかに変わり、光南通の交通量が著しく減少している。また、新たな開発が企画されていない現状から、交通量が増加するとは考えられない。 現計画である21丁目線への曲線化により、宅地の中央部に道路ができると、この区画は宅地としては全く利用できなくなる。また、この都市計画の制約があるため、新たな開発行為等を行うことができず、資産価値が著しく低下しているのが現状である。 さらに、多額の予算を必要とする財政負担の割には投資効果があるものとは到底考えられないことから、見直して現状を維持してほしい。</p>	2	<p>【既記載】 ご指摘のとおり、弥生通の全線整備により、光南通の交通量は減少するものと考えております。また、21丁目線への曲線化により、宅地が分断されることについては、「基本的な考え方（案）」においても、光南通の課題として記載しており、今後の個別路線の具体的な検討段階において、線形を変更し、現道を活用した直線化の方向で検討することとしています。</p>
<p>（案）の中でも触れられているように、車道による高速で大量な移動手段とは別に、「歩行」「自転車」といった手段と緑地とを結びつけた街の骨格づくりを今後のまちづくりの柱にしていきたい。平坦部が多い帯広市街地は、歩きやすい反面、変化に乏しいため、景観の変化を緑に求める必要があると思います。</p>	1	<p>【参考】 帯広市の主な自転車歩行者専用道路には、とてつぼ通、ウツベツ・グリーン・ロード、北栄グリーンロード、啓北グリーンロードなどがあり、中心市街地と帯広の森、緑ヶ丘公園や十勝川などの緑地を結んでいます。 今後は環境負荷の低減や健康増進などの観点から、自転車・徒歩が重要な交通手段と考えており、頂きました意見は「環境にやさしい」まちづくりを進めるうえでの参考とさせていただきます。</p>

【案件の最終案】

別紙のとおり